

Y I A 会員だより 2025年4月号



発行：吉野川市国際交流協会・広報部(Tel22-2271,Fax22-2270)

第244号 ホームページURL <https://yia2020.net/>

【4月以降の活動予定他】

◎外国人お遍路ガイド

日時：第22回 4月14日(月) 10:00～

第23回 4月26日(月) 13:00～

◎第1回理事会

日時：4月26日(土) 15:00～

場所：文化研修センター

◎ベトナム人留学生他スピーチコンテスト

(四国大学主催)

日時：4月27日(日) 午後

場所：四国大学交流プラザ

◎2025年度定期総会

日時：5月17日(土) 13:00～

場所：文化研修センター

◆歌や踊りで楽しく多文化交流

瀬尾 規子



2025年3月2日(日)に徳島県福祉基金助成事業「外国人が住みやすい地域づくりや社会参加を図る活動」として、「多文化共生交流会～知り合おう、ふれあおう、認めあおう～」を開催しました。最初に四国大学准教授で日本語教師の元木佳江さんが基調講演『やさしい日本語から広がる「やさしい せかい」』を行いました。動画を交えて、とてもわかりやすい内容でした。続いて、四国大学留学生がネパールの紹介と踊りを披露しました。きれいな民族衣装を着て上手に踊ってくれました。鴨島日本語教室で学んでいるタルハさんは、流暢な日本語でパキスタンの紹介をしました。休憩時間には、ベトナムやインドネシアのお菓子を食べながら交流しました。後半は、山川日本語教室の皆さんが歌や踊りを披露しました。ベトナムの紹介の後、



女性はアオザイを着て、カラフルな扇でフォーメーションを組みながら踊ってくれました。平田さんも一緒に踊りました。仕事で忙しい中、踊りの練習はたいへんだったと思います。カンボジアの4人は国の歌を歌いました。王さんは、川村さん、石田さんと一緒に中国の民謡を熱唱しました。最後に、アミさんがインドネシアの踊りを披露しました。プロ級の踊りで見事でした。川村さんの太鼓伴奏も素晴らしかったです。盛りだくさんで時間延長になるかと思いましたが、予定どおり16時に閉会しました。参加者は63名で、多文化共生にふさわしい楽しい交流会となりました。

出演していただいた実習生の皆様、ご指導いただいた日本語講師の皆様、たいへんお世話になりました。

◆「道草キッチン」試写会に参加

萩森 健治



キャスト (出典：市長公室からの広報資料)

吉野川市市制 20 周年及び板野町町制 70 周年を記念とした映画「道草キッチン」の試写会が 3 月 8 日午後、鴨島公民館で開催されました。会場には原井市長、白羽弥仁監督を始め、映画に関係して招待された市民など約 200 人が参加しました。

ストーリーは、都会で小さな喫茶店を営んでいた主人公・桂木立（中江有里さん）が、再開発で立ち退きを要請されたことや吉野川市から相続に関する通知が届いたことを機に心機一転、吉野川市に移住しようと決めて展開される物語。初めて訪れる徳島の地で、美しい風景や地域の魅力に触れ、地元の人々や懸命に日本で生きるベトナム人たちとの交流体験を経て、自分自身の生き方を見つめ直しベトナム料理店を始めようとする……

当映画の撮影に先立つロケハンで、白羽監督は YIA の日本語教室に興味を示され日本語教室や日本語スピーチコンテストなどを数回視察されました。そして、映画に YIA も協力し、山川教室で撮影された授業のシーンもあります。ベトナム出身のタ・ティ・ハンさんは鴨島駅前の焼き鳥店の店員として、グエン・トウ・トゥイさん他ベトナム人 10 人は教室の受講生として出演しています。このほか、駅前中央通りでの阿波踊りのシーン、鴨島駅や稲荷通り、HOSTEL・OE、善入寺島、川島潜水橋、水神の滝などでのシーンがあり



山川教室での撮影（写真上左から 2 人目が白羽監督）

ドローンによる空撮映像も素晴らしいです。

当映画は、今年の秋ごろに公開されるとのことですので皆さんぜひご覧ください。

◆インドネシア・イスラーム文化交流会に参加して 川村 雅子

2 月 15 日土曜日、鴨島の日本フネン市民プラザでの交流会に参加してきました。NPO 法人千葉イスラーム文化センター理事の杉本恭一郎氏の公演を中心に、礼拝の見学や食事会、ヒジャブやタキヤといった衣装を身に着ける体験ができるなど、盛りだくさんの内容でした。



実は、私が一番興味を持っていたのが食事で、 런던（牛肉や鶏肉などを複数のスパイスやココナツミルクで長時間煮込んだ料理）とリソル（見た目はコロッケですが、中の具をモチモチの生地で包んでパン粉をつけて揚げたもの）をいただきました。런던はピリ辛のスパイスが効いていて食欲をそそり、런던は食感も味も楽しくて、絶対自分もチャレンジしてみようと心に決めました。



インドネシアの方々もたくさん参加していて、食事会では同

じテーブルに座ってくれ、お互いの国の食べ物や仕事の話などで盛り上がりました。アラビア語で（その方はこどものころからアラビア語を習っているとのこと）私の名前まで書いてくれました。現在、多くの外国人が技能実習生や特定技能として地域に貢献してくれていると知識として知っていても、こんなふうに日常生活を送っているのだなあ実感する機会はそうないと思います。私たちの地域の中で、自分たちの文化を大事にしながら暮らしている人々のことをもっと知りたいと思う一日でした。